

新しいアンケートの試み ～教員による自由作成項目 一巡後の結果～

井戸 慶治 Steve T. Fukuda
(徳島大学全学共通教育センター 点検評価部会)

はじめに

全学共通教育センターでは、授業評価アンケートにおいて、2009 年度前期より新しい試みとして、教員による自由作成項目を導入している。これは、共通項目の他に 5 個以内の項目を授業担当教員自身が自由に作成し、学生に問うというものである。その趣旨は、1) 授業の多様性の保証、2) 授業改善の直接的な手段、3) 授業評価における各教員の自主性を高め、アンケートへの学生の無関心を抑制すること、の三点である。本稿では、この自由作成項目を中心に、一巡後（全学共通教育においては、科目群ごとに一年半に一度アンケートを実施している）の結果について報告する。

1. アンケートの概略

項目数は、共通項目 8、自由作成項目 5 以内である。自由作成項目は、授業担当教員が不要と考えれば作らなくてもよい。**アンケートの項目**は以下の通り（学生に配布したアンケート用紙にもとづくが、紙面の制約により一部短縮・要約）。

(5 を最高値とする 5 段階評価)

【自分自身に対する評価】

- 1) [受講態度を問うもの]
- 2) [授業外の学習時間を問うもの]
- 3) [授業の目的・目標の理解を問うもの]

【教員に対する評価】

- 4) [シラバスと授業の整合性を問うもの]
- 5) [説明・発声の適切さを問うもの]
- 6) [創意工夫を問うもの]
- 7) [総合評価]
- 8) [中間アンケートからの改善を問うもの]

【教員による自由作成項目】

以下、担当教員が別紙や板書などで示す設問(5 個以内)があれば、5 段階評価で回答せよ。

9) () 【10】—13) も同様

この自由に作成された項目については、今後の参考のため、折を見て公表することとした。この抄録とカンファレンスもその機会と考えている。なお、項目作成の参考のため、以下のような例(全 16、1-p は省略し、一部表現を短縮)を配布資料に添付し、ここから使用することも可とした。

- a. 新しい知識や技能が獲得できたか。
- b. 対象の多面的な見方ができるようになったか。
- c. 知的な意味で視野が広がったか。
- d. 授業の内容に知的な面白さがあったか。
- e. 授業テーマや関連分野への興味が湧いたか。
- f. 授業への準備は十分になされていたか。
- g. 教科書や配布資料、提示の参考文献は適切か。
- h. 個々の質問や発言への教員の対応は適切か。
- i. 単なる知識の羅列でなく、系統的に考えられる枠組みが与えられていたか。
- j. 受講生の理解度に対する配慮が感じられたか。
- k. 授業で得た知識や考え方は役に立ちそうか。

2. 2010 年度前期までの結果

自由作成項目の**使用率**は、最初の 2009 年前期が 36 パーセント、後期が 30.5 パーセント、2010 年前期が 26.5 パーセントであった。しだいに低下はしているが、すでに実施している大学からの情報にもとづく当初の予想(1 割)をはるかに超える高い数値であった。このうち多くの授業で、例示項目でなく担当教員による独自の項目が使用されたが、科目群ごとに特色ある項目が作られ、この点で自由作成項目の意義が明らかになった。その主要なものを以下に提示する。

- 1) 紙面の制約により、**2009 年前期(教養科目群)**の結果については省略する。2009 年度の抄録を参照されたい。

2009 年度後期（基礎科目群・社会性形成科目群）**【授業全体に関するもの】**

将来の専門分野との関連性が十分ある授業か。

【授業の具体的方法に関するもの】

配布された授業概要のプリントは適切か。

出席カードに記載した自由記述に対する教員の対応は適切か。

学び方の高校との差異が繰り返し指摘されたか。

課題や小テストの難易度は適切か。

上記プリントの解説は十分だったか。

小テストの実施は予習復習に有効だったか。

課題レポートと解答は講義の理解に役立ったか。

毎講義での前回の復習は理解に役立ったか。

演習問題の難易度の希望を答えよ（5段階設定）。

【授業の重点的内容に関するもの】

〇〇の計算法の基本は理解できたか。

【授業の全体的効果に関するもの】

あなたの勉強方法が、受験対策から学問指向に変革されつつあるか。

【授業にかかわる学生の予備知識に関するもの】

高校数学の基礎部分(IA, IIB)は習得しているか。

この授業の前に高校数学の復習が必要と思うか。

高校の教科書や参考書を参照して自習したか。

・例示項目について(使用回数の多かったもの)

4回:k 3回:a, e など

小人数授業の多い社会性形成科目群の自由作成項目はなかった。基礎科目群の独自の作成例では、習得事項を確認する手段についての設問が多い。教養科目群に比べると、基礎科目群の目的(専門授業に必要な知識の習得)が、より明確で限定されていることによると思われる。事前例示項目の中では、将来的有用性を問うkが最も多く利用され、この点でも教養科目群と対照的である。

2)2010 年度前期（基盤形成科目群）**【授業全体に関するものなど】**

英語の授業数や種類がもっとあればよいか。

授業で学習責任が自分にあったと感じた。(英語)

【授業の具体的方法に関するもの】

ビデオ教材を用いた学習について(情報)

e ラーニングの倫理教材について

プレゼンテーション演習は継続すべきか。

電子メール、インターネット、ネットワークの繋がる仕組みについての学習は継続すべきか。

Access を用いたデータベースの自由演習は今後も継続すべきか。(以上情報)

ビデオ「英語で Let's Go!」を見たことについて。

課題の英文エッセーを書いたことについて。

教科書は適切か。(仏、中)

クラス・ジャーナルを通してライティング・コミュニケーションの練習ができた。(英語)

(授業で勉強した)歌が面白かった。(中)

【授業の重点的内容に関するもの】

文法についての説明はわかりやすかったか。(仏)

【授業の効果に関するもの】

TOEIC 準備のうえで効果があったか。

今後は自分で TOEIC の勉強ができるか。

英語や、英語を通して世界を知ることに対して関心が高まったか。

英語学習に対して意欲がわいたか。

時事英語に慣れた。

英語学習へのイメージが全体的に好転したか。

中国に行って現地の人と話してみたいか。

ドイツ語圏に対する関心が強くなったか。

例示項目について(使用回数の多かったもの)

(外国語のみ) 5回:a, 4回:c,g, 3回:h,j

新しい知識・技能の獲得を問うaが当然外国語全般で最も多い。次に、初修外国語に限るが、知的視野の広がりや教科書等の適切さを問うもの、質問への対応や理解度への配慮を問うものが多い。

独自の自由作成項目については、授業方法(機器やソフト、外国語の教授方法や教材)について問うものが最も多く、授業の効果(TOEIC 関係、自発的学習への動機づけ、外国に行って現地の人と話したいか、外国語を通じての外国事情、文化への関心)について問うものがそれに次ぐ。

全体としては非常に多種多様で、教員や授業の個性が現れており、この結果は今後の作成の参考にもなると思われる。今後の課題としては、外国人非常勤講師による使用が少なかったため、次回は英語による説明書を添付するのがよいだろう。